

4. カリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成の方針

- (1) 多様な選択ができるよう、看護学の全領域を網羅的にカバーした「看護援助学」「看護管理学」「地域・在宅看護学」「母子看護学」「がん・成人看護学」「高齢者看護学」「がん看護 CNS」「老人看護 CNS」「助産学」の9コースを設置しています。
- (2) 医学系研究科看護学専攻博士前期課程では、全ての授業科目において、保健・医療・福祉の基盤となるSDGsの「3. 全ての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」「12. つくる責任つかう責任」「17. パートナリシップで目標を達成しよう」の目標達成に関連した内容を含んだ構成となっています。特に各専門領域の特論（各2単位）や基盤科目「家族看護援助論（2単位）」「看護理論（2単位）」「看護倫理（2単位）」での学修を通じて、対象者を深く理解し高度な知識と実践をもってSDGsの「3. 全ての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」を提供できる人材を育成します。「コンサルテーション論（2単位）」「看護人材育成論（2単位）」での学修を通じて、看護実践に必要な連携・協力に必要な知識・態度の基盤を修得することで、「17. パートナリシップで目標を達成しよう」の達成に資する人材を育成します。「リスクマネジメント論（2単位）」「看護研究方法演習（2単位）」「保健医療福祉政策論（2単位）」での学修を通じて、研究や政策において新しいものを生み出す知識を修得し、「12. つくる責任つかう責任」に資する人材を育成します。さらに全ての授業科目において、これらのSDGsの目標との対応関係をシラバスに記載し、学生にSDGsの理解を促します。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

- (1) 専門分野の看護学を系統的に学び、研究課題を見出し、修士論文に繋げられるよう、専門分野の「特論2単位」「演習2単位」「看護学特別研究8単位」を1セットで必修としています。
- (2) 看護学の基盤を成す「看護倫理」「コンサルテーション論」等の科目を「基盤科目」とし、専攻分野に関わらず選択必修8単位を課しています。
- (3) 専攻した分野以外にも、幅広い看護学の知見を学べるよう、『専門選択科目』16科目と各専門分野の「特論」7科目を設定しています。
- (4) 研究能力の向上をめざし、全員が「看護研究方法演習」で多様な研究方法の基本を学んだ後に修士論文に取り組めるようにしています。

3. 学修成果の評価の方針

- (1) 学修の成果は、シラバスに記載された学修目標、成績評価基準に基づき、試験、レポート等により達成度を評価します。
- (2) 学位論文審査は公開とし、知識・技能を発展・活用できる能力の修得度によって評価します。
- (3) 学生の学修成果等をもとに、教育課程を検証します。

<医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）学位論文評価基準>

島根大学医学系研究科看護学専攻（博士前期課程）における修士論文の審査については、以下の基準により評価する。

1. 基本要件

修士論文は、学位申請者の単著とし、医学系研究科看護学専攻博士前期課程学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が求める能力を修得したことを示す、明瞭かつ論理的に展開されている論文でなければならない。

(1) 領域性

研究は、特定のテーマに関してそれを客観的かつ正当に評価できる専門家集団が存在する領域のもので、自分の研究がこの領域の中でどう位置づけられるか自覚しなければならない。

(2) 公益性

研究は、個人的な問題意識ではなく、上記の研究領域の中で共有される意義があるものでなくてはならない。

(3) 論証性

当該研究領域の専門家集団に対して、自分の研究テーマ及び方法論が、公的な研究として意義があるものであると自ら示さなければならない。

2. 論文の構成

修士論文は、次の要件を満たす構成とする。

- (1) 看護学や看護実践の発展に貢献する内容を有する。
- (2) 先行研究が十分に検討され、研究背景が系統的に示されている。
- (3) 研究目的の設定や研究方法が適切である。
- (4) データ・資料などを的確に収集し、妥当な分析を行っている。
- (5) 新しい知見の提示や独創的な提案等を行っている。
- (6) 文章表現が適当であり、首尾一貫した論理展開になっている。
- (7) 研究の全プロセスにおける倫理的配慮が適切になされている。

3 論文の評価内容

修士論文の内容は、次のような点において評価する。

- 1) 看護学や看護実践の発展に貢献する内容を有する。
- 2) 先行研究が十分に検討され、研究背景が系統的に示されている。
- 3) 研究目的の設定や研究方法が適切である。
- 4) データ・資料などを的確に収集し、妥当な分析を行っている。
- 5) 新しい知見の提示や独創的な提案等を行っている。
- 6) 文章表現が適当であり、首尾一貫した論理展開になっている。
- 7) 研究の全プロセスにおける倫理的配慮が適切になされている。

5. 看護学専攻の構成

看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、がん・成人看護学コース、がん看護 CNS コース、高齢者看護学コース、老人看護 CNS コース、助産学コースの9コースで構成されている。

6. 履修方法

次頁の履修モデルおよび、教育課程表(1)～(4)を必ず確認し、修了に必要な単位を把握し、
たうえで、研究指導教員のもと履修登録を行うこと。

教育課程表(1): 看護援助学コース
看護管理学コース
地域・在宅看護学コース
母子看護学コース
がん・成人看護学コース
高齢者看護学コース

教育課程表(2): がん看護 CNS コース

教育課程表(3): 老人看護 CNS コース

教育課程表(4): 助産学コース